

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月29日(火)

### 《果たすべき使命のために -ファールとシメオン-》

小学生ならば一回くらいは、ファール(Fabre1823~1915)の名前を聞いたことがあると思います。著書の「ファール昆虫記」は有名です。しかし、その昆虫記に書いてある内容を詳しく知っている人は少ないと思います。昆虫について記されているのだろう、と思われるくらいでしょう。私も詳しくは知りません。^^

では、「ファール昆虫記」が書かれたのは、ファールが何歳のときだったと思いますか？彼は、ある田舎の小さい学校の先生だったそうです。56歳の時に退職し、昆虫記を書き始めます。それから約30年かけて書きあげ、彼が84歳の時に「ファールの昆虫記」10冊が出版されたのだそうです。

今日の福音(ルカ2・22-35)に、シメオンという老人の話が紹介されています。シメオンは、正しくて、聖なる預言者のような人です。いつか来られるメシアを待ちながら、教会の聖堂で残りの人生を生きていました。このシメオンは、イエス様を連れてきたマリア様に、「この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりします。また、反対を受ける印になります。」と言います。

『反対を受ける印』というのは、深い意味のある神学的な言葉です。この世の中がカトリックの考え方と反対に動く場合、カトリック信者ならば、仕方なく『反対を受ける印』になります。ですから、迫害の時代には、たくさんの殉教者達が『反対を受ける印』になり、その印が今まで残っています。そして、その殉教者を殺した人々の中にもその印に気付いて、“ああ、これはなんだろう。” “こんなに反対されてまで彼らが守ろうとしているものは何だろう。” と思った人々がいました。そのように殉教者達は、『反対を受ける印』としての役割を果たしたのです。

そして最後に、「母であるあなた自身も剣で心を刺し貫かれます。」というシメオンの預言があります。そしてその預言どおりにマリア様は一生を過ごします。最愛の息子が十字架につけられる場面も、一つ残らず全部見ました。そのような、本当に傷みばかりの人生を過ごされたマリア様だからこそ、私たちは母として認めているのです。

皆様、ファールとシメオンには、共通点があります。それは“自分にやるべきことがある時には、絶対諦めない”ということです。年齢とは関係ありません。健康とも関係ありません。条件にも関係ありません。“私が果たさなければならない”という目的がある時には、やはり全力を尽くして何とかすべきだと思います。皆様もみんなそういう使命をお持ちです。その使命を果たすために、私たちはどのくらい頑張っているか、どのくらい受けとめているのか、考えて見る機会になって欲しいと思います。

さあ、皆様、今日の第一朗読(一ヨハネ2・3-11)は、使徒ヨハネの手紙でした。使徒ヨハネのことは、聖書によく書かれています。イエス様に特に愛された弟子です。常にイエス様の側において、イエス様の十字架の死を見守った唯一の弟子です。彼は、汚れていない心、とてもきれいな心を持っていたと思います。そのヨハネが書いた手紙を今日私たちは読みました。聖書のこの部分は、説明なし

にそのまま読んでも、よく理解できます。

今日の第一朗読のテーマは、『光の子と闇の子』でした。数日前にも『光の子、闇の子』について申しあげましたね。その時の話を思い出しながら、この朗読をもう一回読んでみたら、皆様が具体的に感じられるのではないかと思うので、幾つかの文章をもう一度読んでみます。

「わたしたちは、神の掟を守るなら、それによって神を知っていることが分かります。『神を知っている』と言いながら、神の掟を守らない者は、偽り者で、その人の内には真理はありません。」

この言葉について、皆様はどう思われるでしょうか。

「しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています。これによってわたしたちが神の内にいることが分かります。神の内にいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません。」

愛する者たち、わたしがあなたがたに書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い掟です。」

「『光の中にいる』と言いながら、兄弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます。兄弟を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。しかし、兄弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです。」

最後にもう一回読みます。

「兄弟を憎む者は闇の中におり、闇の中を歩み、自分がどこへ行くかを知りません。闇がこの人の目を見えなくしたからです。」

ありがとうございました。